

2022年11月4日

住友生命保険相互会社

ゴールドマン・サックス・グループが提供する インフラ・エクイティ・ファンドへの投資 ～太陽光発電所への投資を通じ、GHG（温室効果ガス）排出量削減に貢献～

住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 高田 幸徳、以下「住友生命」）は、ゴールドマン・サックス・グループ（以下「ゴールドマン・サックス」）が提供する「ジャパン・プライベート・ソーラー・ファンド1号投資事業有限責任組合」（以下「本ファンド」）への投資（32億円）を決定しました。

本ファンドは、ゴールドマン・サックスが運用する、日本国内の太陽光発電所を投資対象とするファンドであり、国内の再生可能エネルギー案件のみを投資対象とするインフラ・エクイティ・ファンド*として、住友生命初の案件となります。



© ゴールドマン・サックス

*インフラ事業を運営する企業の株式等を通じてインフラ資産に投資を行うファンドです。

住友生命は、資産運用を通じて環境・社会へのポジティブなインパクトの創出に取り組んでおり、中長期の安定的な運用収益確保に加え、脱炭素および持続可能な社会の実現への貢献を目指しています。本ファンドの投資対象は日本国内の太陽光発電所のみであり、日本の脱炭素社会への移行を促進するとともに、2030年および2050年のGHG（温室効果ガス）排出量削減目標達成に寄与する投資であると考えています。

【本ファンドの概要】

運用会社	ゴールドマン・サックス証券株式会社
私募取扱業者	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社 野村証券株式会社
ファンド名称	ジャパン・プライベート・ソーラー・ファンド1号投資事業有限責任組合
投資金額	32億円（住友生命投資分）

【本件を通じて貢献すると想定される主なSDGs項目】



以上